

るもの思ひより其事業の遂に易なりし
を發見するは即ち可なり敵を輕視するより
之を見るるに重きに失するは少くも其に可なり
りて曾て英國新聞紙の竊に露國に警告する
所ありたるに對し三週日前ノゾオ ウレ
アは論じて曰く「彼等は幽靈を以て我等を
威さんと欲す」と然れども日本の幽靈の如
き不氣味にして且つ實體あるは實に露國の行
進に立ち現れたるものとあらざるべし我等は漫
ろに有名なるチエールの首を想起すチエール
は曾て千八百七十年に入るの前人の普魯西軍
隊の實力につき告ぐるものあるに對して曰く
「可なり」蓋し幻影を見て愕くに過ぎざる
のみ其數字にして果して眞なるに於ては佛國
の命運や又絶望ならざるべからず」と
幽靈と云ひ幻影と云ふは其相背たるや而も
露國の爲めに就きて其醒め来る苦痛の佛國の
如く甚しからざるらんことを望まざるべからず
(此項完結)

明治三十七年四月十九日時事

○タイムスの日露

戦争批評 (十四)

タイムスの軍事評論家が其二月二十七日の
紙上に論じたる所左の如し

日本海軍の牽制運動

旅順口に於ける日本の行動は之を以て壯烈な
る事件の他の方面に於て進行中なるを表明す
るものなりと爲さるべからず即ち海軍の任
務は露國艦隊をして専ら自家の防備にのみ忙
ならしめんとするものなるべし旅順口の港口
を閉塞せんとする頗る大膽なる計畫の二十三
日夜に於て行はれたるは疑ふべからざる事實
に旅順口の通航爲めに妨礙されたるも全く閉
塞するに至らざるものなりと見るは即ち
公平なる斷定なるに似たり東郷提督の率ゐる
日本艦隊は明に旅順口に對して嚴密の監視を
加へ居れるものにしてブラツク將軍は二十四
日の夜再び之に攻撃の行はれたることを報ぜ
り但し敵の行動に就ては別に詳述する所あ
るなし此等の計畫は日本が欲望したりし如く
に遂に充分に成就せざりしとするも敵の注
意を牽制して之を何處までも防禦の位置に束
縛し置くに於て優に海軍の任務を達し得たり
ラレー曾て云へるとあり曰く「我等一たび防

禦の位置に立たしめらるれば權勢即ち終る」と
と浦鹽斯德より報にして信すべしとせば上
村中將は今北方に於て露國海岸線の沖にあり
此結果して確報なるに於ては之が結果露國海
軍の牽制を受けるものと益々甚だしく即ち陸上
に於て重大なる作戦の將に初められんとする
時期既に切迫せるを知るに足るべし旅順口に
於ける露國艦隊の敵の目に觸るゝものとなく
して海上に出づるを得日本連隊の將に其兵
を揚陸せんとする間際に至り之が集合地に達
するを得るにあらざるよりは日本の計畫に對
して露國の干渉を加へ得べき機運は甚だ少な
きに似たり何となればノーゲイツクの修築に
完了したるが如くなり露國艦隊の主力
九日夜の狀態に比して聊かなりとも改善し
得たりとの報は唯聖彼得堡に於けるタイムス
通信員より之を聞くのみなるを以てなり

陸兵衝着の地點

第一回の打撃は果して何れに於て下るべきや
其は依然として秘密なり然れども北韓に於け
る兩軍隊の斥候は安州と平壤との中間に於て
相接し戦争舞臺の此部分は第一回激戦の
場と供されんとする状況頗る備れりとす左は
云へ現在に於ては唯一箇師團の兵仁川に上陸
し之に次で同港に發せられんとし其後更に北

方に其上陸地點の移されたるべき他の二箇師
團兵あるを聞くのみ元山は日本人に依りて兵
力を以て占領されたるや否や否として何等の
確證を得ると能はず又大陸に向け日本軍隊の
大部分を輸送する運送船は果して何れの地點
に其針路を執らしめられたるや更に其實情を
物色するも能はざるなり日本兵がシエツト
灣に上陸したりとの報は昨日の第三版に見え
たり此報は吉林の西に當り奉天哈爾濱間鐵道
の一驛たる寬城子より牛莊に逃げ來りたる英
國宣教師の傳ふる所にして此報に従へば上陸
したる軍隊は琿春に對して其作戦を行ひ長嶺
吉林に向はんとす云ふ琿春はボシエツト灣
を去る約二十三哩の地にあり左まで其不長な
らざる道路同市より連山の間に蜿蜒して西北
内地に入る此方角に於ける海岸の氷は四月初
旬に至るまで消散するものとすを以てボシエ
ツト灣は目下の氣候に於て大部隊の兵を揚ぐ
るに堪へたる適當の地點にあらず特に内地山
岳重疊して產物乏しく交通不便なる等後期の
戰闘に於て浦鹽斯德攻撃の爲め一時の根據地
に之を使用する外甚だしく要用なる地點なり
とするも能はず然れども哈爾濱より浦鹽斯
德及び旅順に達する鐵道線路を破壊せしめん
が爲め日本の之に其侵入軍の一部隊を上陸せ
しむると亦必無を期せざるなり是れ蓋し今の

場合に於て適當の行動ならんが此方面に於ける上陸は今日の氣候に於て露國の到底期せざる所なるを以て其不意に出づるの便利は充分之が侵入軍に於て存すべきなり
我等は固より日本人の心中を其底に至るまで観望し得たりと自任するものと能はず又斯く斯くの事情の下にありて日本人は必ず斯くの如き事を爲すべし又爲さざるべしと斷ずる能はざるものと勿論なりと雖も眼前の事實より判じて尙ほ我等は鴨綠江に於ける形勢を決するの日本に取つて此際における軍事上第一の利益なるを疑はず
日本軍隊は未だ曾て歐洲の敵兵に接觸したるものとなし日本人は簡人として如何に其勝利を疑はずとするも之が軍議を左右する慎重なる政治家は初戦成功の士氣に及ばず結果恐るべきものあるを必ず見るに疑はざるべし

摩天嶺の險

鴨綠江に於ける露國の軍隊は露國軍隊の他の部隊と相別かるゝものと頗る遠く其對岸には之に打撃を加ふるに堪へたる水陸兩棲の軍隊全部屯在して又之を加へんとするの準備を爲せり先づ攻勢を取りて大成功を獲るの機會は頗る重大にして決して之を輕視する能はず此機會は實に神よりの賜なりとす鴨綠江の後方に

は摩天嶺の要害あり之が地理は寸尺の微に至るまで日本人の通曉せる所なり日本にして既に露國の兵力を以て海軍と並より鴨綠江に於ける露國軍隊を把握して之を破壊するを期し得べき以上徒にその機を失するは即ち天の運命を暴殄するものなり
露軍にして其日本兵に依りて把握され且つ破壊さるゝ前まず退いて摩天嶺の險に據らんか斯くの如き要害の陣地に向つて正面より之を攻撃するは遂に危險の業たるに至るべし此場合に至らば韓國より進軍せる日本軍の枝隊は其本隊の半莊又は遼東灣西岸の其他の地點に上陸するに至るまで之が陣地に接近して以て露兵を其位置に保持し置かんことを謀らざるべからず
日本兵遼東灣頭より奉天へ向け進軍し來らば摩天嶺は遂に之を支ふるものと能はざるに至るべし之を防守する軍隊は速に退却するにあらざれば必ず其潰破する所となりん牛莊は何の時に至りて解氷するに至るべきや其期日は正確に之を豫知する能はざるなり然れども日本は今や其機を練うするものと能はず鴨綠江岸の形勢にして一たび決着せば強大なる日本軍隊の此地點に來着すべきものと最早や期して待つべきなり牛莊に於ける領事團は其地勢上必然に來らんとする結果よりして同港を防護せんが爲め何の言を弄せんを欲するか其辯論は要

タイムスの日露戦争批評 (十五)

タイムスの軍事記者が其三月一日發行の紙上に於て論じたる所左の如し
戦局移らず

其注意を傾倒して東洋演劇の序幕に對したる世界の見物人は幕間の長きにつきて聊か倦意を感ずるに至れり旅順口に於ける海軍艦隊の香色さへ最早や人の心を惹くも能はず愛でたる名々の平壤に起りたる小立廻の如きは些ばかり其目を樂ましめたるに過ぎず二幕目の幕は果して何の時に至りて開かるべきや露國艦隊の斯く速に破壊さるべきとは全く日本の意想外に出でたる事實にして海上に於ける勝負は今少し長引くべしとして豫め之に稍や長き時日を充て置きたるものと第一に略は明白なるが如し日本人は多數の英國人の如くに海戦の勝負に對して少なからざる憂慮を懸けたり要するに其新戰艦の動作に關して更に實際の経験を有せざるを以てなり是を以てか日本は其海軍の計畫に於て専ら慎重の態度を執り制海權の問題尙ほ未だ決定に屬する間は唯僅に小部隊の兵を以て仁川に其危險を敢てせんものと

結氷と暴風

本年の冬は例に比して寒氣の聊か強きものあり浦鹽斯德港前の海面は頗る廣く堅氷の鎮す所となり鎮南浦は三月十四日に至るまでは之が解氷を豫期する能はず鴨綠江亦然らん牛莊と雖も其進し速に解氷するに至らざるべし氣候亦頗る急惡にして十日より二十二日に至る間に西南の暴風あり前週末に至りて又新に吹き初めたり凡て此等の事情は露軍の行動をして遅延せしむるに至りたるものなるべし戰爭舞臺中軍隊の機軸を行はんとする部分には此目的に適合した港灣存せざるを以て少なくも一部の機軸は之を外洋に面する海岸に於てせざるべからず之が爲め天氣驟變の日を待つは蓋し免る能はざる所なるべし

虚報の勢力

鴨綠江は確に解氷し初めたるものなり京畿及び鴨綠江より來れる報は共に其事を云へり牛莊より更に近報に接せず此際數日と云はす數時の間に於て事件の表面は直に變化するものとあるべし而して第一の打撃の下さるべき方向は依然として秘密なり
鴨綠江岸の所分、旅順口の包圍之に續いて即ち主力軍隊の牛莊集合は形勢の之を必要ならしむる自然の順序なるべしボエント灣上陸の風説の如きは深く之に信を措くを要せず又その風説よりして或部分に於て想像を起らしたる斷定の如き等しく承認すると能はざる所なり彼の避難宣教師はボエント灣を距るものと數百哩の地にあり且つ露人より斯くの如き風説を開取りたるものなるべく露人が冬期中に英人をして盡く遠走せしめんことを欲したるものなるは略ぼ之を察するに足るべし是を以て此宣教師の證言甚だしき價值を有するものにあらざるべし何れにするも日本兵の勢力は其集中力如何にあつて存す既に露軍の鴨綠江に於て其戰を挑めるあり旅順口亦その眼前に降下せる恐るべき好例たり然るに斯る遠隔の地點に於て日本兵をその攻撃を行ふべしとは殆どあるべからざる事態に屬す露軍隊